

〈食に関する指導の目標と指導内容〉

④ 感謝の心（食物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々へ感謝する心をもつ。）

- ・ 食生活は、生産者をはじめ多くの人々の苦労や努力に支えられていること。
- ・ 食料の生産は、すべて自然の恩恵の上に成り立っていること。
- ・ 食という行為は、動植物の命を受け継ぐことであること。
- ・ 食事のあいさつは、食に関しての感謝の気持ちの表現であること。
- ・ 感謝の気持ちの表れとして、残さず食べたり無駄なく調理したりすること。

近年、生徒の生活様式も変化し、自然や人間とのかかわりの希薄さから、生命あるものとの接触が少なくなり生命の尊さについて考える機会を失いつつあります。指導にあたっては、生きとし生けるものの生命の尊厳に気づかせ、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもつように指導することが重要な課題となります。

日々の営みである食は、他の動物や植物の生命によって自らの生命を維持し心身を育むもの、勤労の成果によるものであることから、生命の大切さや食への感謝の気持ちの必要性について理解を深めることは大きな意義があります。

また、学校給食に地場産物を活用することは、自分たちの食生活が多くの人の勤労によって成り立っていることに気づき、感謝の気持ちをもつことにつながります。

そして、食事のあいさつや残さず食べること、無駄なく調理することなどの意味を考えさせることで、自らの生命の大切さを深く自覚させ、他の生命を尊重する態度を身につけさせたいものです。



中学校 第3学年 道徳

● **主題名** いのち、ということ 3－（1）生命の尊さ、自他の生命尊重

● **本時の目標**

- ・ 食べているものの命に感謝する心を育み、命を大切にしようとする気持ちを高める。
- ・ 食べ物について関心をもつことで、携わる人々の思いや苦労を理解する。

● **食育の視点**

- ・ 生産者や自然の恵みに感謝し、食品を好き嫌いなく残さず食べる。 (感謝の心)
- ・ 食生活は、生産者をはじめ多くの人々の苦労や努力に支えられていることを理解する。 (感謝の心)

● **本時に関連する食に関する指導の学習計画（全14時間） ※ 太字は関連指導案参照**

<p>【理科5時間】「自然の中の生物」 ☆ 食は、動植物の命を受け継ぐことであることを理解する。(感謝の心) ・ 食物連鎖に興味・関心を持ち、生物どうしの関係を意欲的に調べる。* ・ 自然界における生物の循環について、生物のつながりと関連づけて説明できる。 ・ 自然界における生物の数量関係や釣り合いを資料を基に考察する。 ・ 自然界では生物相互が常に釣り合いを保って生活していることをまとめる。</p>	<p>【美術1時間】「自然との共生」 ☆ 食料の生産は、自然の恩恵の上に成り立っている。(感謝の心) ・ 自然とのかかわりをテーマにした作品に関心を持ち、意欲的に話し合おうとする。 ・ 自然と美術、環境と美術のかかわりについて考え、作家の発想や思想を感じ取ることができる。 ・ 「自然との共生」という視点から今後考えられる造形作品の在り方を考える。</p>
<p>【理科4時間】「自然と人間生活」 ☆ 食料の生産は、自然の恩恵の上に成り立っている。(感謝の心) ・ 地域の豊かな自然や恩恵について調べる。 ・ 調べたことを基に話し合う。 ・ 地球の豊かな自然が、長い時間をかけた生命の営みによってつくられたことを理解し、子孫に残すために何をしたらよいかを考え、話し合う。 ・ 豊かな自然を子孫に残すために、自ら考え実際に行動する。 ・ 自然がもたらす恩恵から自然を多面的総合的にとらえ、自然と人間生活とのかかわり方をまとめる。</p>	<p>【道徳1時間】「いのち、ということ」本時 ☆ 生産者や自然の恵みに感謝し、食品を無駄なく使って調理する。(感謝の心) ☆ 食生活は、生産者をはじめ多くの人々の苦労や努力に支えられていることを理解する。(感謝の心) ・ 食べているものの命に感謝する心を育み、命を大切にしようとする気持ちを高める。 ・ 食べ物について関心をもつことで、携わる人々の思いや苦労を理解する。</p>
<p>【技術・家庭3時間】「楽しい会食をしよう」 ☆ 感謝して、無駄なく調理したり残さず食べたりする。(感謝の心) ☆ 感謝の気持ちの表現として、食事のあいさつをきちんと行う。(感謝の心)</p>	<p>【給食の時間】 ☆ 食は動植物の命を受け継ぐことであり感謝して食べる。(感謝の心) ☆ 感謝の気持ちの表れとして、残さず食べる。(感謝の心)</p>

● **教科等との関連**

- 「わたしたちの食生活」「わたしたちのより豊かな食生活（技術・家庭1年生）
- 「世界の州の食文化・第一次産業」（地理1年生）
- 「身近な地域…農業」（地理2年生）

本時の展開

学 習 活 動	時 間	指導上の留意点 支援 (○)・評価 (☆)		資 料 等
		T 1	T 2	
1 食べる理由と、食べるときに気をつけることを確認する。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前にアンケートで把握しておく。 ○ 「必要な栄養素を種類・量ともに摂取する」大切さを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前にアンケートで把握しておく。 	アンケート 【資料2】
いのち、ということ				
2 読み物資料を読む。 (1) テープを聞きながら、資料を読む。 (2) ワークシートに主人公の心情について記入する。 3 主人公の心情について話し合う。 (1) 必死になって何かに抵抗している声を聞いたときの、主人公の気持ち (2) 脇の下を、すうっと一筋、冷たい汗が流れ落ちていくときの主人公の気持ち (3) 「あたたかい。確かにあたたかい。」と感じた主人公の気持ち。 4 主人公の気持ちが変わったことについて話し合う。 「そうとなでてやりたいような気分。」「心地よく足の裏に感じていた。」 5 栄養教諭(T 2)の話聞き、食べ物に携わる人々について考える。	35分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文を録音したテープを流す。 ○ 机間指導を行いながら、生徒の書いたことをチェックする。 ○ ワークシートに記入したことを基に話し合わせる。 ○ 限られた意見ではなく、多くの意見をかかわらせながら、主人公の心の動揺を感じ取らせる。 ○ 「生きているようで気持ちが悪い。」などの発言が出た場合、資料から主人公の気持ちを再確認する。 ☆ 命を大切にしようとする気持ちを高めることができたか。(発言より) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 机間指導を行いながら、生徒の書いたことをチェックする。 ○ 机間指導を続け、よい考えや授業を深める考えを書いている生徒に発言を促す。 ○ 屠畜に携わる人々の思いや苦労について話をする。 	読み物 【資料1】 ワークシート 【資料3】
6 農場のおじさんに手紙を書く。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 命の尊さや重さにふれる。 ☆ 他の生物の命をいただいて、自分たちの命があることを理解し、感謝の気持ちをもつことができたか。(手紙より) ☆ 食べ物に携わる人々の思いや苦労を理解することができたか。(手紙より) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 机間指導を行う。 	手紙シート

ママがウイーンに行って二日たった。パパの料理は、冷凍食品と缶詰だけ。こんな日があと何日もつづくなんて！

その日、学校で担任のホッター先生が、「農場見学に出かける。」と言い出した。その見学は、豚の解体を見せてもらって、ソーセージづくりを実習するというものである。フリードリッヒおじさんの家が農家で、豚を一頭つぶして、ソーセージにすることになったので、よかったら見においでとの電話があったからである。というわけで、お昼前からフリードリッヒおじさんの家へ見学に出かけることになった。

電車で揺られ、30分以上歩き、おじさんの家に着いた。だれも出てこない。少しぶらついていたら、「世にもあわれな」としか形容できない悲鳴に、ぼくは全身が縮んだ。ぼくたちの日常生活では、あまりなじみのない声。必死になって何かに抵抗しているものの声だ。その声にまじって、けたたましくほえる犬の声、そして人の声。みんなさぐるような目で、おたがいの顔を見つめ合う。「おい、ありゃ豚の声だぜ。」シュテファンが、少しばかり青ざめている。「自分の運命を知っているんだ。」

女の子たちは泣き出さんばかりの表情だ。ホッター先生もじっと聞き耳をたてている。ブリギッテは、おびえた顔で肩を寄せするようにしている女の子たちをしりめに、彼女は首をすくともたげ、まっすぐな視線を裏庭に続く家の脇の小道に投げている。何の表情も読み取れないその白い顔。ぼくは少しあわててしまう。一瞬、豚の悲しい声がぼくの耳から消える。

「やあ、ようこそ！」フリードリッヒおじさんが現れた。「今、解体中なんだ。おじょうさんたちには、刺激が強すぎるかも。」ホッター先生が続ける。「その、解体は、昔ながらの手法で行われるわけだから、女性にはすすめないが、ぜひ見学したいという男性諸君は、いっしょに来なさい。」ぼくたちは、思わず顔を見合わせた。「おい、どうする？」シュテファンが、一歩後ずさるようからだをひいて小声でささやく。ごくん。ぼくは、みんながいっせいにごくりとつばを飲む音を聞いたような気がした。

「い、いくよ、もちろん！」男の子たちがぞろぞろ動き始めた。女の子でついてきたのは3人。残った者は、口々に「おやめなさいよ。」とわめいている。3人の中にはマドンナBもいた。しゃんとした姿勢で歩いている。「すっげえ、マドンナBだぜ。へいきなのかな、きれいな顔してさ、わりに神経太いな。」シュテファンが首をすくめる。豚は、納屋の入り口近くの柱につってあった。

「ああ、神様！」気の弱いトーマスの声だ。なまあたたかい血のにおいが、からだにまとわりつく。納屋の薄闇に、白っぽい豚が、さかさぶりになってぼおと浮かんでいる。脇の下を、すうっと一筋、冷たい汗が流れ落ちていくのがわかる。「この解体のしかたは、背割りといって、背中から割る方法だ。いろんなナイフを使い分けるんだ。」みんな、おっかなびっくりの気分も手伝って、いつになくおとなしい。納屋の入り口近くでは、赤いひげの男が腕まくりしてバケツに入った赤黒い血液をかきまぜている。

「あれが、ブルートブルスト（血のソーセージ）の原料ってわけか。」だれかのささやきが聞こえる。「そのとおり、おれたちドイツ農民は、豚の血一滴、内臓の一かけらだってむだにはしない。ぜんぶ使っているいろいろな方法で食べちゃう。なんせ、神様が与えて下さったいい豚だ。そまつになんかできやしない。」おじさんの声がいちだんと高まる。「さあ、それじゃ、こいつをもっとばらばらにして、いよいよ、ソーセージをつくるぞ。さあ、ぼうずたち、手伝え！」

みんな顔を見合わせるばかりで、だれも前に出ようとはしない。ホッター先生が豚の背中に手をつっこんだ。「あたたかいんだ、この豚。まだ、ぬくもりがある。肉があたたかい。さあ、だれでもいい、さわってごらん。」だれも動かない。凍ったような空気が、ふわりと動いた。みんなの中からすすみ出たのは、マドンナBだった。「あたたかいわ、本当にあたたかい。」みんなが次々と動き出す。ぼくもその波に乗る。肉を見ないようにして、思い切って手を入れる。あたたかい。たしかに、あたたかい。

「さっきまで、この豚は生きていた。ぬくもりを残して、ソーセージになろうとしている。ぼくたち人間は、生きていくために、野菜、肉、魚を食べる。他の生き物の生命をもらって生きている。それを忘れないでほしい。」先生の言葉は、するすると体の中に吸い込まれていく。「じゃ、草の生命をもらって牛や豚が育ち、人間がそれをいただく、というわけですね。」シュテファンが言う。「そのとおり、食物連鎖というんだ。自然の恩恵なくして生きていけない。」前の方にいる何人かは、ぶら下がった豚に自然に手をふれている。なんだか、そうとなでやりたい気分だ。だれもがやわらかい表情だ。ぼくは、納屋にしかれたワラの自然な弾力を、心地よく足の裏に感じていた。

* 出典 汐文社 少年少女平和ライブラリー・2

『あしたは晴れた空の下でーぼくたちのチェルノブイリー』

作者 中澤晶子 画家 くにもとぜんぺい

資料2

〈アンケート〉

3年 組 番 氏名 _____

① あなたは給食を残さず食べますか？

A：ほとんど残さず食べる。

B：時々残す。

C：残すことが多い。

② 残す場合、よく残すものは何ですか？

③ 残す理由を書いて下さい。

④ 好きな食べ物は何か？

⑤ 苦手な食べ物は何か？

⑥ あなたは動物を飼っていますか？

はい いいえ

⑦ ⑥で「はい」と答えた人は、何を飼っていますか？

⑧ ⑥で「いいえ」と答えた人の中で、過去に飼ったことがある人は、その動物と、いつ頃飼っていたのかを答えて下さい。

【動物】

【いつ頃】

資料3

【題名】

3年 組 番 氏名 _____

○ 必死になって何か抵抗している声を聞いたときの、主人公の気持ちを考えよう。

○ 脇の下を、すうと一筋、冷たい汗が流れ落ちていくときの主人公の気持ちを考えよう。

○ 「あたたかい。たしかにあたたかい。」と感じた主人公の気持ちを考えよう。

○ 『そうっとなでてやりたいような気分だ』『心地よく足のうらに感じていた』

「ぼく」ほどのような気持ちになっただけでしょうか？

※ 関連指導案 中学校 第3学年 理科

1 単元名 「自然の中の生物」

2 単元の目標

(1) 自然界における物質の循環について、生物のつながりと関連づけて理解し説明できる。

3 本時の目標

・ 植物と動物、動物と動物の「食べる・食べられる」関係について、理解し説明できる。

4 学習過程

学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 点
1 既習内容の復習をする。 ・ 植物の営み…光合成 ・ 動物の営み…他の動植物を食べる 2 人間は、何を食べているか話し合う。 3 本時の課題を知る。	7分	○ 既習内容を確認し、本時の課題につなげる。 ○ 自分の食生活から考える。
動植物の食べる・食べられる関係について考えよう		
4 海中の生物の関係を調べる。 (1) 海中の図に引かれた矢印から、矢印の意味を話し合う。 (2) 海中の生物の「食べる・食べられる」関係を調べる。 ・ 一般的に、大きな動物が小さな生物を食べる。 5 陸上の生物の関係を考える。 (1) 図の生物について、生活の特徴等をまとめる。 ・ ヘビ…樹林、林床に生息 ・ ワシ…高木に営巣、肉食性 ・ ネズミ…土の穴の中に生息 ・ イタチ…土の穴、自然の窪みに生息 ・ カエル…両生類、水辺に生息 ・ バッタ…草原に生息 (2) 図の生物について、「食べる・食べられる」関係を矢印で表す。 ・ 網の目のようになる。 (3) 陸上の生物の食べる・食べられる関係をまとめる。 6 身近な生物の関係を調べる。 (1) 身近な生物について、食べる・食べられる関係を矢印を使った図で表す。 (2) 図を見て、気がついたことを話し合う。 ・ 網の目のようになる。 ・ 動物は、他の生物を食べないと生きられない。 ・ 人間も自然界の生物の1種で、他の生物を食べないと生きられない。	38分	○ 生物どうしの「食べる・食べられる」関係を示していることをおさえる。 ○ 大きさの感覚が把握しにくい場合は、説明を加える。 ○ 各動物に関して、イメージがもてるようにする。 ○ 草食動物、肉食動物の特徴についても関心をもたせる。 ○ 矢印の色を変えて、わかりやすく工夫させる。 ○ 上手くできない生徒には、支援する。 ○ 自然界では、この関係がもっと複雑であることにふれる。 ○ ペットは、閉鎖された環境にあるので、考えない。 ○ 生息状況によっては、例外的な捕食活動を行うことがあるので、例外は扱わない。 ○ 食べるという行為は、他の生物の命をもらうことであることに気づかせる。 ○ 他の生物の命に感謝の気持ちをもてるように配慮する。
7 本時のまとめと次時の予告を聞く。	5分	